

令和7年度

奈良県公立高等学校入学者一般選抜学力検査問題

# 国語

## 注意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

この部分については  
著作権により公表できません

この部分については  
著作権により公表できません

この部分については  
著作権により公表できません

(注) A I＝人工知能  
連歌を巻いて＝和歌の長句(五七五)と短句(七七)を二人で応答して詠んで

(永田和宏「A Iと連歌を巻く」による)

(一)  A、Bの片仮名を漢字で書き、 C、Dの漢字の読みを平仮名で書け。

(二)  線部の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 結局のところ      イ 時と場合によっては  
ウ 何はなくとも      エ さらに付け加えると

(三)  線①と評される理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 蓄積されたデータをもとに一語一語の接続の仕方を分析すること  
で、言葉と言葉の関連性を正確に把握できるから。

イ 蓄積されたデータから一語一語の使用状況を逐一明らかにすること  
で、特定の言葉の使用頻度が一挙に可視化されるから。

ウ ある言葉と関係の深い言葉を蓄積されたデータから探し出すこと  
で、言葉同士のつながりが一般的なものになりやすいから。

エ ある言葉に続く言葉をテキスト上の言葉をもとに新しく作り出すこ  
とで、言葉同士のつながりが一過性のものになりやすいから。

(四)  線②からわかる筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 短歌や詩では、各時代の流行を後世に残そうとして言葉を選択する  
ため、より強い印象を与える表現が好まれる。

イ 短歌や詩では、社会的な関心が高い話題を明確に伝えようとして言  
葉を選択するため、他者の共感を呼びやすい。

ウ 短歌や詩では、個人的な体験をより普遍化しようとして言葉を選択  
するため、作者の思いがわかりやすく伝わる。

エ 短歌や詩では、主観的な思いを工夫を凝らして表現しようとして言  
葉を選択するため、作者の独創性が生まれる。

(五)  線③とはどのようなことか。文章中の言葉を用いて簡潔に書け。

(六)  線④とあるが、「アナログ情報をデジタル化する」ことを言い  
換えている言葉を、「I」の部分から二字で抜き出して書け。

(七) この文章の述べ方の特色として最も適切なものを、次のア～エから一  
つ選び、その記号を書け。

ア 言葉に対する筆者の思いを、様々な場面で活用できるA Iの汎用性  
の高さを例示しつつ、具体的に述べている。

イ 言葉に対する筆者の思いを、A Iと連歌を巻く過程で再認識したこ  
とを指摘する中で、筋道立てて述べている。

ウ 短歌に対する筆者の思いを、A Iが短歌を作ることは是非について  
の持論を展開する中で、詳細に述べている。

エ 短歌に対する筆者の思いを、文の組み立て方に対するA Iの驚異的  
な対応力を賞賛しつつ、率直に述べている。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

この部分については  
著作権により公表できません

この部分については  
著作権により公表できません

この部分については  
著作権により公表できません

(注) 社会科学＝人間の社会的共同生活の構造や機能について研究する学問  
モニタリング＝観察し、記録すること プロセス＝過程

- (一) 線部の対義語を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。  
ア 恣意的な イ 画期的な ウ 合理的な エ 恒久的な
- (二) 線①の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。  
ア 人びとが大事だと考えることは一つではないので、多くの問題から重要なものを抽出する必要があるから。  
イ 人びとが守るべき規範についての認識は人によって異なるので、個人の判断基準を平準化する必要があるから。  
ウ 人びとが大事だと考えることについての認識は人によって異なるので、みんなまで考えていく必要があるから。  
エ 人びとが守るべき規範は一つではないので、社会生活で遵守すべき基準を多様に示していく必要があるから。
- (三) 線②とはどのような問いか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 答えがあるかどうかもわからない、簡単に答えが見つからない問い。  
イ 独善的な傾向に陥ることなく、誰もがその考え方に納得できる問い。  
ウ 問題の細部を掘り下げて表現している、具体的にわかりやすい問い。  
エ 難解な内容を含んだ問題を、簡単に考えられるように工夫した問い。
- (四) 線③とあるが、どのようなことに「不確実性」があると筆者は述べているか。文章中の言葉を用いて簡潔に書け。
- (五) 線④とあるが、ホリングがこのように主張する理由を、文章中の言葉を用いて八十文字以内で書け。
- (六) この文章で筆者が述べている内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 社会科学は揺るぎない正解の発見が目的ではなく、正解らしいものを提案し、実行後に結果を検証して、また考えていくという学問である。  
イ 社会科学は一人の学者だけで研究するものではなく、みんなが協力しながら研究するものであって、我々に協調性が求められる学問である。  
ウ 社会科学は日常言語に近い言葉で提案をするものなので、人びとの共感を得やすく、問題の抜本的解決につながる可能性がある学問である。  
エ 社会科学は理想的な社会の実現を目指すものではなく、個人にとって重要な問題を中枢に据えて考える、我々にとっては身近な学問である。この文章を「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」の三つの部分に分けたとき、論の展開の仕方として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
- (七) 社会問題の核心を簡潔に述べ、「Ⅱ」でそれを具体的にわかりやすく解説して、「Ⅲ」で問題の解決に向けた糸口を暗示している。ア 「Ⅰ」で従来の考え方を述べ、「Ⅱ」でそれを具体的な例を挙げて補強して、「Ⅲ」で考えの基幹となる部分を再度強調している。  
イ 「Ⅰ」で従来の考え方を述べ、「Ⅱ」でそれを具体的な例を挙げて補強して、「Ⅲ」で考えの基幹となる部分を再度強調している。  
ウ 「Ⅰ」で従来の考え方を述べ、「Ⅱ」でそれを具体的な例を挙げて補強して、「Ⅲ」で考えの基幹となる部分を再度強調している。  
エ 「Ⅰ」で従来の考え方を述べ、「Ⅱ」でそれを具体的な例を挙げて補強して、「Ⅲ」で考えの基幹となる部分を再度強調している。
- (八) 「Ⅰ」で多角的に様々な考え方を述べ、「Ⅱ」で具体的な例を挙げ自らの立場を明確にした上で、「Ⅲ」で主張の正当性を示している。

次の文章を読み、各問いに答えよ。

今は昔、木こりの、山守に斧を取られて、わびし、心憂しと思ひて、類杖突きてをりける。山守見て、「さるべき事を申せ。取らせん。」といひければ、

悪しきだになきはわりなき世間によきを取られてわれいかにせん  
と詠みたりければ、山守返しせんと思ひて、「うううう。」とうめきけれど、「えせざりけり。さて斧返し取らせてければ、うれしと思ひけりとぞ。」

〔宇治拾遺物語〕による

〔注〕山守＝山の管理者 斧＝木を切るための道具 類杖＝ほおづえ

さるべき事を申せ＝気の利いた歌を詠め 悪しきだに＝悪い物でさえわりなき＝困ってしまう えせざりけり＝何もできなかった

(一)

線部を現代仮名遣いに直して書け。

(二)

線①と反対の意味をもつ語を、文章の中から抜き出して書け。

(三)

線②とあるが、山守はなぜうめいたのか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 大切な道具をなくしてしまい、世間から厳しく非難された木こりの怒りが表現された歌に対し、返答する歌がいくつも思い浮かんだから
- イ 大切な道具をなくしたのに、平然と仕事を続けている木こりの無頓着な態度が表現された歌に対し、あきれ言葉が失ってしまったから
- ウ 大切な道具を取られたのに、不満を漏らすずに働く木こりの不屈の精神力が表現された秀歌に対し、感服して言葉が失ってしまったから
- エ 大切な道具を取られてしまい、仕事ができず途方に暮れる木こりのつらさが表現された秀歌に対し、返答する歌を思いつかなかったから

【意見文】

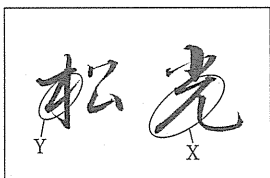
私は、自分の経験を通して「心のバリアフリー」の大切さを実感した。多様な人々が共生する社会の実現を目指して、「心のバリアフリー」を広めていきたいと考える。

私は先月、部活動の練習中に足を痛めて、少しの間、松葉杖を使いながら生活をした。階段の上り下りや扉の開け閉めなど、私が困っている時に多くの人から「手伝いましょうか。」と声をかけていただいた。自分から助けを求められずにいた私は、大変助かった。

一方で、困っている人になかなか声をかけることができないという人もいる。令和元年に国土交通省が行った「心のバリアフリー」に関するアンケート調査の中に、声かけや手伝いをしなかった時の理由として、「困っているかどうかわからなかった」「声をかけても断られるのではないかと思った」という回答があった。以前は私も同じように、声かけをしたり電車で座席を譲ったりすることに對して消極的であった。それは、私の心の中に他者に対する無関心さや自分の好意を断られて傷つきたくないという思いがあったからだと思いついた。しかし、そのような考えが目に見えない様々なバリアにつながっているのではないかと考え、自分を変えていこうと思うようになった。

今後、私は、相手が何に困っているかを想像し共感する力を磨いていこうと考えている。困っている人に対して、適切な距離感で声かけや手伝いをすることが大切だと思うからだ。自分が行動することで、身近なところから「心のバリアフリー」を広めていきたい。

次の行書で書いた□内の漢字を、楷書で書いたものと比較したとき、○で囲まれた部分X、Yの行書の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。



- ア X 点画の連続 Y 点画の省略
- イ X 点画の連続 Y 点画の丸み
- ウ X 筆順の変化 Y 点画の省略
- エ X 筆順の変化 Y 点画の丸み

五

春香さんは、国語科の授業で意見文を書く学習をしている。次は、春香さんが書いた「構成メモ」と「修正後の構成メモ」、「意見文」である。これらを読み、各問いに答えよ。

【構成メモ】

【意見】

「心のバリアフリー」を広めたい。

【根拠】

- ・足を痛めた経験
- ・声かけをためらう理由

【修正後の構成メモ】

【意見】

「心のバリアフリー」を広めたい。

【根拠】

- ・足を痛めた経験
- ・声かけをためらう理由

【意見】  
自分から「心のバリアフリー」を実践する。

(一)

春香さんは、友達のアドバイスにより「構成メモ」に修正を加え、「修正後の構成メモ」を作った。友達からどのようなアドバイスがあったと考えられるか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 声かけをためらう理由を世代ごとに整理して特徴を示すようにしたらよいと思う。

イ 「心のバリアフリー」が広がるメリットを具体的に示すようにしたらよいと思う。

ウ 自分が今後実践しようとしている具体的な行動を示すようにしたらよいと思う。

(二)

【意見文】からわかる春香さんの述べ方の工夫として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 問いかけるような言葉を用い、興味を喚起させるよう述べている。

イ 資料を効果的に引用し、自らの体験と結びつけながら述べている。

ウ 接続する言葉を効果的に用い、様々な話題を論理的に述べている。

エ 多くの会話表現を用い、文章に臨場感をもたせるよう述べている。

(三)

あなたが友達にアドバイスをするときに大切だと考えることを、次の①、②の条件に従って書け。

条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、大切だと考えることを具体的に書き、第二段落では、その理由を書くこと。

条件② 原稿用紙の使い方に従って、百字以上百五十字以内で書くこと。